

平成28年度
事業報告書

平成28年4月 1日から
平成29年3月31日まで

公益財団法人
タカミヤ・マリバー環境保護財団

概 況

公益財団法人タカミヤ・マリバー環境保護財団は、平成23年6月10日に新公益法人としての認可を受けて以降、6回目の決算期を迎えました。

新公益法人の定款では、事業目的をよりわかりやすく、現実的な表現に改めておりますが、財団としての理念は、財団設立当時の寄付行為と基本的内容は大きく変わったところはなく、より公益性、公平性に水辺の環境に特化した公益財団として実践してまいりました。公益財団6年目の28年度も福岡県より認可を受けました下記、5事業を計画通り実施致しました。

公益目的事業

- I. 河川・海岸の美化推進事業
- II. 水生生物の生態研究及び保護・育成事業及び海域の水産資源保護増殖事業
- III. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究・増殖、水辺の青少年とのふれあい事業を行う団体に対する助成事業
- IV. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究・増殖、水辺の青少年とのふれあいに関するシンポジウム・環境教育
- V. 北九州市環境ミュージアムの運営

I. 河川・海岸線の美化推進事業

1. 市民参加による水辺環境美化事業

28年度は、財団主催、及び共催により、地域住民や小学校児童など、一般市民も参加しての河川・海岸線美化清掃事業を13回実施しました。

内訳は、紫川、大蔵川、金山川を中心とした年間7回の河川清掃活動。

小倉日明海岸、門司海岸、若松響灘海岸を中心とした6回の海岸線の美化清掃活動を実施しました。

2. マリバー1号による事業

マリバー1号は2トンパッカー式塵芥収集車で街宣設備を有し、乗務員1名により月曜から金曜までの毎日、北九州市内の海岸線での、市民への環境美化の呼び掛け運動、及び乗務員による清掃、ゴミ収集及び処理並に広大な北九州市内海岸部に投棄される不法廃棄物の監視、担当部署への通報活動を続け、土・日祭日等にはマリバー2号とともに、河川愛護団体等の行う美化推進活動の支援、水辺環境美化への啓発を行いました。

平成28年4月1日から平成29年3月31日にかけて実施致しました内

容は次のとおりです。

① 事業実施期間

平成28年4月1日（金）～平成29年3月31日（金）

② 実施地域（マリバー1号巡回地域）

- ア. 脇田海岸エリア
- イ. 響灘エリア
- ウ. 戸畑・若松エリア
- エ. 日明エリア
- オ. 砂津・末広エリア
- カ. 太刀浦エリア
- キ. 門司港・和布刈エリア
- ク. 新門司北エリア

③ 事業内容

- (1) 北九州市内の海岸線パトロール（河川美化清掃・ゴミ持ち帰り啓発）
- (2) 水辺環境愛護団体等支援

④ 活動状況

(1) 北九州市内の海岸線パトロール

マリバー1号（中型収集車）により、北九州市域内の海岸線を巡回する事を目的とし、パトロールルート、乗務員の勤務スケジュール策定や巡回頻度の検討を行いました。

各エリアにつき月／2回から4回程度の巡回を行うことを、計画・実施いたしました。

(2) ゴミ不法投棄監視・海岸線護岸等の破損の監視

巡回を行う際に大型ゴミの不法投棄の監視、通報及び海岸線護岸の破損事故の監視、通報を行いました。

(3) 水辺愛護団体等支援

下記の通り、水辺愛護団体及び北九州市内の水辺に関する活動を行っている団体が主催するイベントへの出動を行い、ゴミ収集やマナー啓発・指導等の支援を行いました。

平成28年	4月16日	紫川アユ放流祭
平成28年	7月31日	若松区響灘 大清掃
平成28年	9月13日	脇田釣り桟橋 漁港 清掃
平成28年	9月 3日	八幡東区大蔵川 清掃
平成28年	9月25日	門司区新門司 大清掃

平成28年	10月	2日	若松区響灘	大清掃
平成28年	10月	4日	八幡西区金山川	大清掃
平成28年	10月	9日	小倉南北	紫川 大清掃
平成28年	10月	30日	小倉北区紫川	ハゼ釣大会 大清掃

⑤ 成果

ゴミの分別行動に見られるような市民意識の高まりに加え、マリバー号の活動20年以上という実績、近年での1号、2号合同事業によって市民に広く認知していただき、多くの協力を得られるまでになっています。

3. マリバー2号による事業

マリバー2号は北九州市内の中小河川の巡回が主になる為、軽ダンプ式塵芥収集車により、街宣設備を使用し、乗務員2名にて、毎週5日、毎月2回の頻度で北九州市建設局の管理する市内49河川の巡回により、市民への環境美化の呼びかけ、乗務員による清掃ゴミ収集及び不法投棄、護岸施設等の損壊の確認・通報を行いました。

平成28年4月1日から平成29年3月31日にかけて実施致しました内容は次の通りです。

① 実施期間

平成28年4月1日～平成29年3月31日

② 実施地域

北九州市内河川流域

- 1 城内川 2 砂津川 3 神嶽川 4 紫川① 5 紫川② 6 小熊野川
7 長行山田川 8 紫川③ 9 立花川 10 井手浦川 11 母原川 12 茶屋川
13 志井川 14 村中川 15 大川 16 羽山川 17 清滝川 18 奥畑川
19 櫛毛川 20 相割川 21 竹馬川 22 朽網川 23 貫川 24 大野川
25 田原川 26 長野川 27 板櫃川 28 天籟寺川 29 撥川 30 割子川
31 建郷川 32 中子川 33 金山川 34 新延川 35 白木川 36 金剛川
37 笹尾川 38 新々堀川 39 金手川 40 江川 41 坂井川 42 寺田川
43 原田川 44 相川 45 熊本川



③ 事業内容

- (1) 北九州市内の河川巡回パトロール（河川美化清掃・ゴミ持ち帰り啓発）
- (2) 河川愛護団体等支援

④ 活動状況

- (1) 北九州市内の河川巡回パトロール

マリバー2号（軽四輪ダンプゴミ収集車）により、北九州市内の1級河川から準用河川の49河川を全て巡回する事を目的とし、パトロールルート、乗務員の勤務スケジュール策定や巡回頻度の検討を行いました。

その結果、各河川につき月／2回程度の巡回を行うこととし、北九州市との委託契約は144日ですが、財団独自に年間約200日間の出動を計画し、結果として、ほぼ計画通り、210日を超える巡回を実施致しました。

- (2) ゴミ不法投棄監視・河川護岸等の破損の監視

マリバー2号（軽四輪ダンプゴミ収集車）により、巡回を行う際に大型ゴミの不法投棄の監視、通報及び河川の破損事故の監視、通報を行いました。

- (3) 河川愛護団体等支援

下記の通り、河川愛護団体及び北九州市内の水辺に関する活動を行って

る団体が主催するイベントへの出動を行い、ゴミ収集やマナー啓発・指導等の支援を行いました。

平成28年	4月16日	紫川アユ放流祭
平成28年	6月5日	戸畑区天籟寺川清掃
平成28年	9月3日	八幡東区大蔵川 清掃
平成28年	9月25日	門司区新門司 大清掃
平成28年	10月2日	八幡西区金山川 大清掃
平成28年	10月9日	小倉南北 紫川 大清掃
平成28年	10月30日	小倉北区紫川ハゼ釣大会 大清掃

⑤ 成果

ゴミの分別行動に見られるような市民意識の高まりに加え、マリバー号の活動20年以上という実績、近年での1号、2号合同事業によって市民に広く認知していただけるまでになっており、多くの協力を得られるまでになっています。又北九州市の水環境課との連携により、北九州市の河川環境の向上に寄与しております。

II. 水生生物の生態研究及び保護・育成事業及び海域の水産資源保護 ・増殖事業

この事業は、紫川の生態系の研究、アユの研究・保護、北九州市内でのメダカ・ホタルの保護及び、北九州市周辺海域の水産資源保護・育成を行う事業です。北九州市の豊富な自然環境の象徴として、小倉南区・小倉北区を流れ、響灘に注ぐ紫川があります。この川は、田園部と都市中心部を縦断しており生態系を考える上でも重要な価値があります。その中で、仔アユ放流につきましては、28年度も例年通り実施しました。

地元住民や小学生など多くの市民参加によって開催され、今では地域の環境保全のシンボルとして位置付けられています。また、アユは最も象徴的な指標です。当財団は過去長きにわたり紫川において、降下・遡上の状況について調査を行って参りましたが、28年度は、効果的な魚道の改良をIVのシンポジウムの事業と連動して行いました。

1. アユの生態研究・保護・育成事業

4月に恒例となっております「紫川アユ放流祭」は熊本地震の影響により行えませんでした。放流につきましては、福岡県より、ご協力頂いた福岡県産の仔アユ1万尾を放流しました。

また、28年度は水生生物の遡上しやすい魚道の改良を行いました。

(1) 現地踏査（紫川の現況視察） 8月2日（火）、3日（水）

シンポジウムの特別講師に予定しています日本大学の安田陽一教授の紫川流域の現状視察をに併せ、福岡県及び北九州市職員とともに紫川井堰及び今町河畔公園の新池井堰の踏査を行い、それぞれの堰の課題等を確認した。その後、河川敷にて石組み方法の指導を受けました。

現地踏査終了後は、今町市民センターにて意見交換会を開催し、その中で紫川井堰（新日鉄取水堰）の魚道内へ石組を行うことにより、「遡上しやすい魚道づくり」を協働で行うこととりました。



紫川井堰（右岸側）



降下用魚道（左岸側）



新池井堰の魚道



新池井堰(堰)



石組み方法

うろこ状に配列

(2) 設置準備

石組の設置は、教授の指示により魚道のプール5箇所に行く計画にしました。石材は1箇所あたり直径30～40cmの石12個と、直径5～10cmの石30個が必要とのことで、不足しないように多めの確保を行いました。石材は業者から購入した角を落した安山岩を現地に搬入しました。なお、現地の河川敷降り口は狭く、大型トラックが入れないため、前日11月16日よりトラック数台分を事前に搬入し、残りは進捗状況にあわせて適宜搬入しました。

(3) 魚道改良の実施 11月17日（金）

魚道のプール内に石材を敷き詰める作業は、福岡県及び北九州市、との共同で実施しました。なお、魚道内での石組は教授が実施し、他の者は石運びと石渡しを行いました。「魚道内で複数人が石組みをした場合、石で指を挟んだりする事故が起きやすい」とのことで、教授が一人で実施されました。



石組の上端部

設置状況(その1)

設置状況(その2)

設置状況(その3)



設置完了後

作業完了後

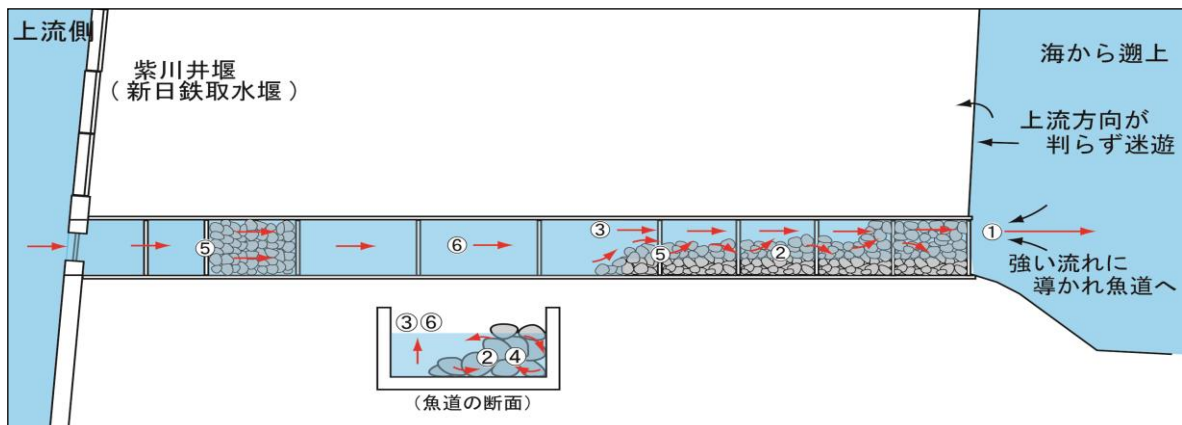
(4) 実施結果

石組による改良のポイントを表 3-1 に、魚道内における石組の設置状況(詳細)を図 3-1 に示しております。

今回、「遡上しやすい魚道づくり」として、紫川井堰の魚道プール内に石組を実施しました。この石組による効果は、流れが強くなることによる呼び水効果(主流の明確化による魚道への誘導)、多様な流れや流況改善(流れの強弱や水当たりの変化)など、多様な効果が期待されます。なお、計画ではプール5箇所への実施予定であったが、最終的には6箇所を設置となりました。今年度はこの石組による魚道改良を実施しましたが、今後はこの石組実施による効果等を把握し、石組の効果について検討していく必要があります。

表 3-1 石組による改良のポイント

改良のポイント (安田教授案)
①呼び水効果の向上
②プール内で多様な流れを形成する
③主流の流れを水面に沿う流れに変更する
④石組による流況改善を行う
⑤落差部が大きいところを解消する
⑥洪水時の流れを想定し、洪水時に沿う流れが形成されるようにする



2. メダカ・ホタルの保護

メダカ・ホタルの保護につきましても、市内各所で助成先団体を中心として、ご協力いただいているビオトープを中心としての調査や増殖事業を行いました。放流種につきましては、同一水系による種に限定する等、生態系に充分配慮し、遺伝子レベルで地域の固有種が守られるよう、場所・方法を選定して行いました。

2. 水産資源保護・増殖事業

北九州周辺の海域水産資源保護・増殖につきましては、海水魚の稚魚の放流を市内各所で行い、資源の枯渇を食止め、保護・増殖に努めました。特に生態系に配慮し、クロダイ、ヒラメなどの周辺海域の固有種を放流いたしました。

Ⅲ. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究・増殖、水辺の青少年とのふれあい事業を行う団体に対する助成事業

当財団では、市民や環境保護団体の皆様と協力しあい、より美しく、自然豊かな北九州市の水辺環境づくりに取組んで行くために「クリーン・マリバー・ネットワーク」運動を提唱しています。一人一人の力だけでなく、また一団体の活動だけでなく、大きなネットワークとして盛り上げていこうという事業です。このため、当財団では環境保全や水生生物保護などに関するPRや、事業活動を積極的に推進する一方、関係団体の活動にも資金援助や協力をさせていただく助成金制度を設けています。

この制度の愛称を“マリバーエイド”と呼び、当財団の趣旨に沿った事業の実施を目的として活動実績を有し、北九州市に所在を置く任意団体、又は有志の調査・研究グループ（自治会、子供会、学校を含みます。）を対象としております。今年度も57団体、58事業に対し助成を行いました。

助成金総額は7,423,222円でございます。

平成28年度分類別助成事業

① 河川環境美化・清掃事業及び河川愛護団体との協力、ならびに支援事業

(1) 河川 北九州市内の河川（主として紫川）

(2) 区間 北九州市内域の全区間

(3) 助成団体 19団体

(4) 合計助成金額 2,570,000円

② 水辺の自然と青少年とのふれあい事業

(1) 事業概要 キャンプ教室・釣り大会・その他自然と親しむ水辺での

イベント

- (2) 助成団体 14 団体
- (3) 合計助成金額 1,603,222 円
- ③ 水生生物の生態研究並びに保護・育成事業
 - (1) 習性研究・遡上数調査
 - (2) アユの保護・メダカ・ホタル飼育
 - (3) 助成団体 12 団体
 - (4) 合計助成金額 1,420,000 円
- ④ 河川・海域の水産資源保護・増殖並びに沿岸域の環境美化事業
 - (1) 北九州市内の稚魚放流 (主として黒鯛)
 - (2) 北九州市沿岸域の環境美化・清掃
 - (3) 助成団体 2 団体
 - (4) 合計助成金額 250,000 円
- ⑤ その他
 - (1) 環境教育事業
 - (2) 海岸線緑化他
 - (3) 助成団体 11 団体
 - (4) 合計助成金額 1,580,000 円

総合計 57 団体 58 事業
7,423,222 円

IV. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究増殖、水辺の自然と青少年とのふれあひに関するシンポジウム・環境教育

この事業は、公1、公2、公3の事業内容をより、一般市民へ広めていくために開催するシンポジウム、及び同様の主旨での子供たちへの環境教育活動を行う事業です。

1. シンポジウム

- ◇日時：平成28年11月19日(土) 9:30~12:00
- ◇主催：公益財団法人タカミヤ・マリバー環境保護財団
- ◇共催：北九州市
- ◇場所：北九州商工貿易会館
- ◇参加：約300名
- ◇行程

①開会

②高宮理事長あいさつ、北九州市梅本副市長あいさつ

③マリバー大賞発表並びに大賞団体報告

④日本大学 理工学部 安田陽一教授

「これからの魚道と河川の在り方について」

当日は、商工貿易会館ほぼ満員の300名を越える市民が来場し、まず、財団の高宮理事長の挨拶の後、環境未来都市でもある北九州市の梅本副市長にご挨拶を頂きました。

その後、マリバー環境大賞が発表され、海岸線の保全活動や野外体験活動などを毎年数多く実施されている「もじ少年自然の家」が受賞をされ、所長より活動の発表をおこないました。

一旦休憩を挟んで、2000年「アメリカ土木学会（ASCE）水理学論文最高賞」、5・13年「ASCE水理学討議論文最高賞」を世界で初めて二度受賞された、日本大学理工学部土木学科の安田陽一教授に「これから魚道と河川の在り方について」と題して講演を行いました。

最初に、自然の河川の流れと護岸をされた河川の増水時との比較から始まり、護岸された河川を改良した後の増水について映像を交えながら説明をされました。河川が同じ場所を常に流れるのではなく、平常時の約3倍の河川幅を持たせたほうが、生き物にとっても河川にとっても非常に安定した環境を保つ事ができるということでありました。続いて、河川の在り方における石組みについて説明をされ、石がしっかりと組まれた形であれば、大水が出た場合でも流される事なく、土砂等も一定量がストックされ、正常な形での河川が保たれるという事でした。

また、最期に魚道の改良について事例を説明され、前日に行われた紫川での魚道の改良事例も交えて、魚だけではなく全て生き物が遡上や降下しやすい魚道はどうあるべきかについて、参加された皆さんが分かりやすいよう説明を頂きました。

シンポジウム全体を通して、途中で帰る方も殆どなく、アンケートを通して「非常に満足した」「今後の活動に大変参考になった」という声を多く頂きました。専門的な話にも関わらず、映像や写真等をふんだんに使いながら分かりやすい説明をいただいたことは、参加した環境保護等に関わる人たちにとっても非常に有益であったと思われまます。

当財団では、今後も環境保護への意識を向上させていく為に、このようなシンポジウムを続けてまいります。

2. 環境教育

① 今町小学校自然体験教室

「ふるさとの川・紫川を守ろう」

日時 7月16日(土)、17日(日)

② 大蔵小学校自然体験教室

「大蔵川の水生生物」

日時 9月3日(土)

大蔵小学校と協力をして「大蔵川環境教育」この事業は、授業の一環として、大蔵小学校の1～6年生の全校児童が参加し、環境教育と地元を流れる大蔵川の清掃を行うイベントです。

川の清掃の前、大蔵小学校の児童に、環境ミュージアムのプログラムで環境について学んで頂きました。

V. 北九州市環境ミュージアムの運営

1. 利用者数

総来館者数は、平成28年度は131,690名で前年比100.5%（平成27年度131,092名）と昨年を上回りましたが、団体については平成28年度434件で前年比84.4%（平成27年度514件）と、下回る結果となりました。これらについて考察すると、一般来館者への集客は毎年恒例の「未来ホテルデー」や「ちょいエコホリデー」、エコライフ講座やエコクッキング、その他毎月実施している多様なワークショップなど、当館の独自のイベントや、地域と連携した「東田サマースクール」や「世界一行きたい科学広場」を実施した成果が表れたものと考えられます。団体数の減少については4月14日に発生した熊本地震における九州方面への旅行客の減少に併せて、一般団体の利用数の減少が大きいと、旅行会社や市民センター、地域活動拠点等、広い団体層への広報を行う必要があります。また、平成29年12月末をもってスペースワールドの閉園も発表されており、東田地域全体の集客に影響が出ることが懸念されたため、当館だけでなく周辺施設と連携して集客できるよう努めます。

2. 自主事業

例年通り「未来ホテルデー」を開催しました。市民団体の活動紹介をはじめ、エコ工作体験、環境科学実験、熊本支援チャリティー企画など、様々なイベントを実施した結果、10,789名が来場し、大変なにぎわいとなりました。また、「ちょいエコホリデー」と題して、8月に特別展「JT生命誌研究館出張展示～いのち愛ずる館の物語り～」を実施、12月は環境学習サポーターの協力を

得て普段実施していない特別バージョンでの館内ワークショップを実施、3月は「もったいない」をテーマに行い、合計5,239名の方が来館しました。今後も継続して実施し、市民活動の拠点となれるよう他団体とのつながりを大切にしたい企画を行います。その他、夏休み宿題企画やクリスマス、バレンタインなど季節に応じたイベントやエコライフ・E S Dの啓発として石鹸づくりや染物講座、料理教室、エコ工作、科学実験、ドキュメンタリー映画の上映、など、さまざまな視点から環境について考えることができるイベントを実施しました。

3. 地域との連携

当館を含めた東田地域にある3つの博物館（北九州市環境ミュージアム、いのちのたび博物館、北九州イノベーションギャラリー）を連携させたイベント「東田サマースクール」を実施しました。夏休みの小学校4年生以上の児童を対象に4日単位で、いのちのたび博物館、北九州イノベーションギャラリーと当館の3つの施設で連携し、各館が1日ずつ担当して特色あるプログラムを行っており、当館では、館内見学をはじめ、地球の道体験、夏休みの宿題向けとしたエコ工作や環境3択クイズなどを実施し、参加者から大変よい評価を頂きました。また、3館とSSH指定校、九州工業大学や北九州高専らと協同で「世界一行きたい科学広場2016 in 北九州」を実施。本物の科学にふれる機会とその楽しさを伝えることができました。当館では、水を使ったおもしろ実験や、発電カーレース、電気パンなど夏休みの自由研究のヒントになる実験を実施しました。また、地域のまちづくりとして八幡まちづくり連絡協議会へ参加、地域の美化活動として毎年恒例の「社長公認堂々ごみ拾い」や、東田3館周辺を毎月第3水曜日に自主的に清掃する「5分間清掃」や八幡東区まつり起業祭の一環として行われる「八幡東田ウルトラ25時間駅伝」への協賛や地域住民が開催する、町内会や茶話会への協力を行いました。そのほか、地域イベントとして定着している、スポーツと自然との共生をテーマにした「北九州・平尾台トレイルランニングレース」や手作りをテーマにした「手作り市場 in 北九州」、認知症をテーマにした「森フォーラム」、八幡東区河内地区竹林の保全活動を行う「北九州里山トラスト会議」への運営協力や、エコライフステージや若松区環境コミュニティーセンターへ環境学習サポーターを積極的に派遣、など地域と一体になった運営を行いました。

4. 利用促進・サービスの質向上、

受け入れ団体については市内外問わず、綿密な打ち合わせを行い、先方のオーダーに合わせた環境学習プログラムの提供を行いました。また、継続実施している、教育委員会主催の環境アクティブラーニングの受け入れや、環境修学旅行、

環境局主催の古紙リサイクルバスツアーやプラスチックリサイクルバスツアー、行政視察など関係部署との連携を図り、円滑な対応を行ったほか、環境学習コンシェルジュとして環境学習における様々な問い合わせに対応しました。個人・団体に関わらず、これまで蓄積したノウハウをもって北九州市内の環境学習相談や具体的な学習ツアーの提案を行い、さらに「ドコエコ！ツアー 北九州市の環境を学ぶ」と題し、北九州市の環境の今を見る事ができるバスツアーを企画。環境ミュージアム、エコタウンセンター、次世代エネルギーパーク、学びとESDステーション、ボン・ジョーノを連携させたオリジナルツアーを実施しました。また、市内中学校に対し、実験的に東田3館でウォークラリー形式の団体利用を実施、これについては好評化を得ており、来年度の新しい利用方法として良い検討材料となりました。

5. 新たな施設利用

8月に実施したちよいエコホリデーでは第5ゾーンにてJT生命誌研究館出張展示を実施しました。今後も館内を利用した期間限定の企画展示、一般への発表場所の提供ということで、広く使用するよう検討したいと思います。また、エコハウスでは5月2日に実施されたG7北九州エネルギー大臣会合の際にエクスカッションでも使用された、本田技術研究所の共同実証である、日本初の燃料電池自動車による外部給電実験（V2H：ビークルトゥホーム）の設備機器の更新を行っています。その他、お手軽工作やちよいエコホリデーなど、イベントでの会場として積極的に利用しました。

6. ガイドの育成

ガイドの育成として、北九州市における市民環境力の向上に寄与できるよう、様々な視点で研修を行いました。本市の環境への取り組みとして最新である城野ゼロカーボン先進街区ボン・ジョーノや北九州エコタウン・次世代エネルギーパーク、ひびきLNG3、九州電力新小倉発電所を視察しました。また、北九州市の知見を広げるためにわかちく資料館や平尾台自然の郷・平尾台自然観察センター、ニッスイパイオニア館を視察し、その他、専門知識を有する職員が他の職員への情報共有を行うことで精錬された業務の遂行と効率化を図るとともに、その知識を共有し、専門でない分野についての知識向上を行いました。また、OJTとして北九州里山トラスト会議との協働で、放置竹林の整備について、現場での活動と通してその重要性を学びました。高齢化社会への対応として、森フォーラムへの運営協力や未来ホテルデーやちよいエコホリデーでの企画運営の参考にするために手作り市場 in 北九州の企画運営に協力したほか、職員の働きやすい環境を維持するためのコンプライアンス研修を実施しま

した。

7. 維持管理、安全管理、その他

重大な館内事故・事件等の発生はなかったが、熊本地震が発生したが館内外における損傷や故障ありませんでした。その他、スタッフによる日常点検、定期点検等を行い、安心・安全な運営を行いました。また、避難訓練や救命救急講習を実施し、有事の際の対応できるようトレーニングを行いました。その他、設備の老朽化が顕著になってきており、不具合が多くなっているため、迅速な状況把握と対応を行います。

8. 平成28年度事業の進捗状況

事業計画の内容	進捗状況
①ちょいエコホリデー 未来ホテルデーを年1回、ちょいエコホリデーを年3回実施します。	①未来ホテルデー10,789名、ちょいエコホリデー3回合計5,239名 総計16,028名を集客しました。
②料理1講座 大人、親子など対象を変え毎月実施します。	②親子、女性、男性と対象を変えて14回実施した。
③3R促進関連講座 有料にて月3回実施します。	③紙すき、古布ぞうりづくりなど50回実施しました。
④エコ生活講座 メニューを変えて毎月実施します。	④せっけん講座、ハーブ講座、草木染めなど11回実施しました。
⑤科学実験 年6回実施します。	⑤水のおもしろ実験、電磁石工作、電気パンなど、6回実施しました。
⑥風呂敷講座 環境学習サポーターと協働で年6回実施します。	⑥出張講座や包み方の展示含め6回実施しました。
⑦エコツアー・グリーンマップ 年6回実施します。	⑦エコツアー3回、グリーンマップ3回実施しました。
⑧青空学 公害資料を体系的に整理・公開することや、公害に関する座学実施などを継続して行います。また、北九州市立大学との協同研究、同時の証言収集も継続し、蓄積された情報はHP等で公開します。	⑧館長を座長とした公開講座の実施や北九州市立大学との共同研究として、公害が激しかった当時を知るかたへのヒアリング調査を実施・記録しました。
⑨月替わりお手軽工作 内容を変えて毎月2回実施します。	⑨予定の通り実施しました。

<p>⑩幼児・親子向け講座 昨年度試行した環境おはなし会を継続実施するとともに、キッズスペースを実施します。</p> <p>⑪短編映画制作・上映 東田シネマを継続するとともに、青空学と連動した蓄積した映像やインタビューをこの場で公開します。</p> <p>⑫ガイド講座 年長者大学の講義にて実施した「伝える技術講座」を一般向けに実施します。</p> <p>⑬こども環境リーダー 夏休み期間中に実施します。</p> <p>⑭参加者との共同菜園・グリーンカーテン作り 参加者と共に育てた植物で染色する講座や料理講座、エコハウスでのグリーンカーテンの共同製作を実施します。</p> <p>⑮ナイトミュージアム 星空のまち・あおぞらの町北九州 ～ドームシアターでプラネタリウムを見よう～を実施します。</p> <p>⑯オリジナル商品開発 廃材を再利用したアクセサリ等のエコグッズの販売を行う。の販売を行います。</p> <p>⑰書籍「まちのインタープリター」出版 編集および初版の作成をします。</p> <p>⑱環境人材育成講座 環境ビジネス講座、国際理解・異文化交流企画を実施する。また、環境学習サポーターや観光ボランティアとの情報を共有する機会を設ける。</p> <p>⑲環境みらい学習システム推進関連</p>	<p>⑩予定の通り実施しました。</p> <p>⑪予定の通り実施しました。</p> <p>⑫年長者大学での講義の一環として実施した。また、職場体験、インターン受け入れの際にも同様に実施した。</p> <p>⑬イオン八幡東田ショッピングモールと共同で地域の子供たちを対象に生物多様性についてワークショップを実施。</p> <p>⑭染物講座やハーブ講座参加者との共同でイベントで使用する植物を生育した。また、エコハウスではオカワカメやパッションフルーツによるグリーンカーテンを作成した。</p> <p>⑮エコハウスを利用したワークショップを実施。</p> <p>⑯市販されていない古布ぞうりの編み機を製作・販売を行った。</p> <p>⑰初版（第1稿）が完成。これをもとに精査し来年度出版販売する。</p> <p>⑱北九州市立大学にて「環境の仕事」について講義や、料理を通じて国際交流について学ぶ研修を実施しました。また、観光ボランティアに対しスマートコミュニティ創造事業やV2Hなど、現在の北九州市の環境政策について学べる研修を企画実施しました。</p> <p>⑲環境学習の相談窓口対を応行しました。その</p>
---	---

<p>環境ミュージアムにおける環境コンシェルジュ機能および、環境情報の発信を行う。</p> <p>⑳東田地域連との連携 いのちのたび博物館・北九州イノベーションギャラリーとの協同は元より、地域住民・商業施設等、東田地域との連携をさらに深め、集客につなげる</p> <p>㉑Pepper 導入（新規） パーソナルロボット「Pepper」を導入し、来館者とのインタラクティブなコミュニケーションを通じて、楽しく、新しい環境学習を創出する。</p>	<p>他、バスツアーの実施やタブロイド紙の発行、ドコエコHPの管理、積極的なSNSでの情報発信などを行っています。</p> <p>㉒3館での出張イベントの実施のほか、ウォークラリー形式での団体見学に対応できるよう連携を図り、東田地域として集客できるようPRを行いました。</p> <p>㉓環境学習だけでなく、イベント案内や周辺情報の照会など、さまざまなアプリケーションを導入することにより固いと思われがちな環境へのカンフル剤として来館者へ十分な効果がありました。</p>
---	---